

公孫樹 (いちょう) 5月号

～学べ 鍛えろ 夢を持って～

ファースト・ペンギン

ペンギンが氷の上をうろうろしているのを見たことがありますか？。水の中に飛び込むかと思うと、なかなか飛び込まない。実は、このペンギンの仕草には、自然界における生存をめぐる厳しい条件が隠されているのです。

○1番先に飛び込むペンギンは

南極に暮らすペンギンは、海に飛び込んで魚を捕ります。ところが、海にはシャチやアザラシ、オットセイなどの肉食獣



が待っています。魚は食べたい、でも敵がいて食べられてしまうかもしれない。ペンギンはいつも氷の上で右往左往しています。そんなペンギンの中で最初に飛び込むのが、「**ファースト・ペンギン**」と呼ばれています。他のペンギンたちは、エサをとって帰ってきたファースト・ペンギンの姿を見ると、次々と海に飛び込むのだそうです。



最初に飛び込むペンギンは怖くないのでしょうか？

最初のペンギンは、絶対に割が合わない役目だと思いませんか。しかし、皆が皆そう思っていると、全員エサにありつけません。誰かが1番にならなくては、2番目はないのです。

○ファースト・ペンギンが人間だったら・・・

これはペンギンの話ですが、人に例えるとどうでしょうか？

NHKの今年の大河ドラマは「花燃ゆ」。ドラマの舞台になった長州藩には、「ファースト・ペンギン」がたくさんいました。幕府の法を犯してまで黒船に乗り込もうとした吉田松陰、松陰のもとで学び、命をかけて新しい世の中をつくり上げた高杉晋作、伊藤博文たちです。彼らは、正に勇気を持って事に当たった「ファースト・ペンギン」でした。

さて、私たちの生活の中にも、時に、海を前にしたペンギンのような場面があります。幕末の偉人たちのように命をかけるようなことではありませんが、例えば、クラスの中で係や実行委員を決めるとき、どうしても友達に意見を言わなくてはいけないとき、何か新しいことにチャレンジするときなど、最初に言葉を発したり、行動に移すことはとても勇気があること、大変なことだと思います。

みなさんは、今、中学生です。これからの長い人生の中には、時にこの「ファースト・ペンギン」の精神を持ってチャレンジしなければならない時がきっとあると思います。

そんなときには「行くぞ!」「やるぞ!」といった決意が大事です。まず一歩前に踏み出すこと、今年は、ぜひチャレンジして「ファースト・ペンギン」になってみてください。

行田探訪

さきたま火祭り

私(校長)の故郷は秩父です。

秩父に暮らしているときは自分の故郷を意識しませんでした。行田に移り住んでから故郷のよさを感じると同時に、行田の素晴らしさも実感しました。行田で生まれ育った人よりも行田のよさを知っているかもしれませんよ。

これから折に触れて、知っていそうで知らなかった「行田のよさ」を紹介していきたいと思います。第1号は、毎年5月4日に行われる「**さきたま火祭り**」です。



○お祭りの始まり

さきたま火祭りは、埼玉地区の人たちが中心となって運営している「**火**」をシンボルにしたお祭りです。このお祭りは、国宝「金錯銘鉄剣(きんさくめいてっけん)」がさきたま資料館に保存されたことを記念して、昭和55年から始まりました。

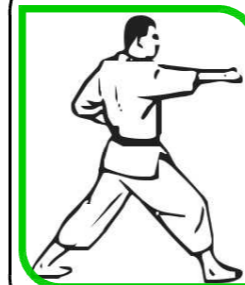
○神話の世界

古事記によれば、天照大御神(あまてらすおおみかみ)の孫「ニニギノミコト」が、「コノハナサクヤヒメ」と結婚してすぐに戦に行くことになりました。ニニギノミコトが戦から帰ってくると、男の子が2人生まれていました。ニニギノミコトは自分がいない間に生まれた子どもを疑いました。コノハナサクヤヒメは、疑いを晴らすため「神の子であるならば、たとえ火の中でも無事に生まれるでしょう!」と自らワラでできた産屋(うぶや)に火を放ち、その中で海幸彦(ウミサチヒコ)と山幸彦(ヤマサチヒコ)を出産したという神話です。



お祭りの見どころは午後6時から。主役の2人を運ぶ「輦台(れんだい)行列」。わらで作られた古代住居を炎上させる「産屋(うぶや)炎上」。そして、稲荷山(いなりやま)古墳や丸墓山古墳からたいまつを持ち古代人に扮した地元の人たちが降りてくる「御神火降り(ごじんかくだり)」。古代ロマンへと導く幻想的なお祭りです。

行中生の活躍



4月19日(日)に行われた第56回埼玉県空手道選手権大会にて、本校1年生小川祥輝君が中学校1年生男子「組手の部」にて、見事ベスト8(出場62名中)に輝き、全国大会(8月・静岡県)に出場することとなりました。全国大会での活躍を祈念しています。

